

# 大掃除実施率と掃除の理由

2021年末の大掃除実施率は51.8%。調査開始以来最低の実施率に。  
 コロナ後普段掃除が増えた人は7割実施という結果も。  
 大掃除をする・しない理由には、いずれも「普段掃除」が大きく関係。

2021年末の大掃除実施率は51.8%と、調査開始以来最も低い実施率となりました（図1）。しかし実施した人の内訳を見てみると、コロナ禍で普段の掃除時間・頻度が増えた人は、全体よりも20%近く大掃除実施率が高い結果となりました（図2）。また、大掃除した理由の1位には「普段の掃除で行き届かないところをキレイにしたいから」、一方大掃除しなかった理由の1位には「普段こまめに掃除をしている」が挙げられ、大掃除実施には普段掃除の取り組み具合が大きく関係していると言えます（図3・図4）。

コロナ禍前までの当社の調査では、普段の掃除をこまめに実施している人ほど大掃除実施率が低い傾向でしたが、コロナ禍以降の調査では、普段の掃除が増えた人ほど大掃除実施率が高い結果でした。衛生意識の高まりやコロナ禍での掃除経験を経て、普段の掃除の取り組み具合や年末大掃除において、掃除する人・しない人の二極化が進んでいるものと推測します。

図1：大掃除実施率（過去5年）

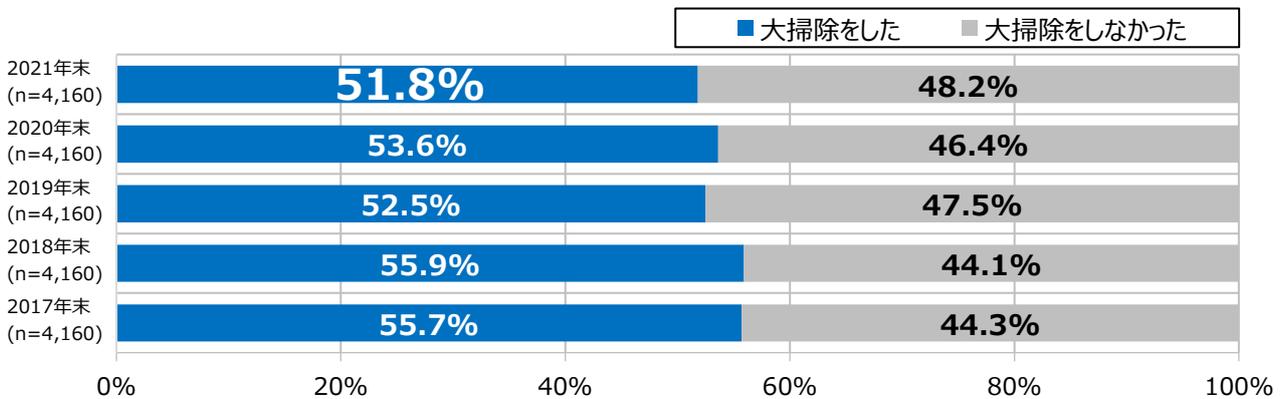


図2：大掃除実施率（属性別）

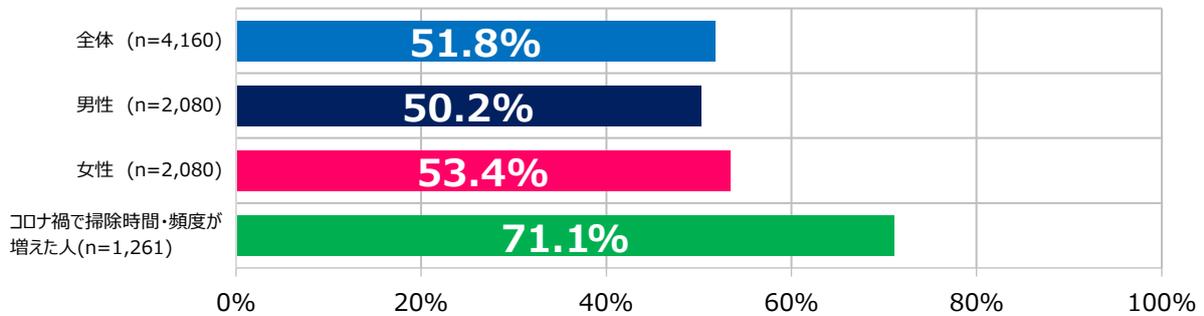


図3：大掃除をした理由（上位5項目）

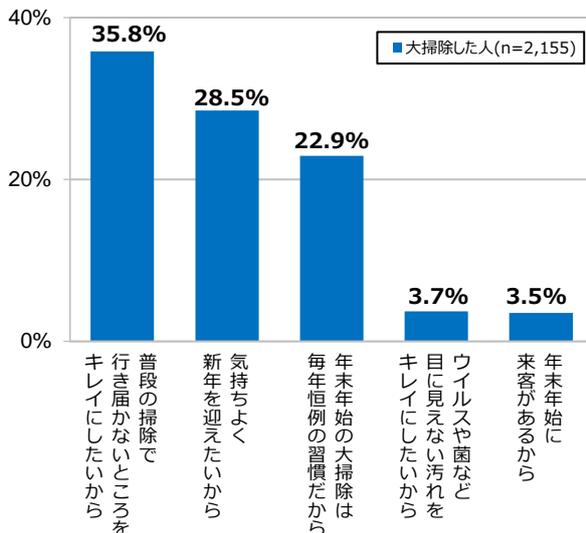
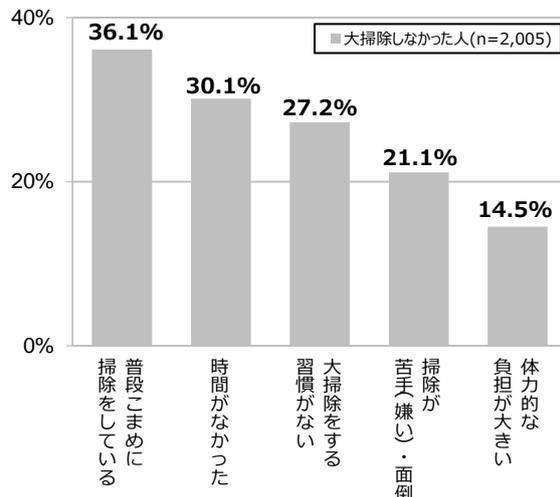


図4：大掃除をしなかった理由（上位5項目）



# 大掃除を実施した日、費やした日数と理由

大掃除は“大晦日直前”が多数派。

男性は「計画的に1日」、女性は「体力負担分散のため2日以上」で実施する傾向。

2021年末の大掃除実施日を聞いたところ、「12月30日（木）」（31.0%）、「12月29日（水）」（29.3%）、「12月26日（日）」（20.0%）の順で多く、12月最終週で実施した人は7割を超え、“大晦日直前”が多数派でした（図1）。

また、大掃除日数は全体では「1日」（28.8%）が最多で、男性は「1日」（36.8%）、女性は「2日」と「3日」（23.9%）が最多でした（図6）。その日数をかけた理由では、男性は「計画的に1日で実施した」（42.7%）が最多だった一方、2日以上かけた理由の女性の1位は「身体に負担をかけずに少しずつ大掃除をしたかった」（38.3%）であり、女性は大晦日直前の短期間でも、体力的な負担を考えて2日以上に分散して大掃除に取り組んでいると推測できます。年末は何かと忙しいので、掃除場所の選択や掃除用具・洗剤などは先に準備しておくことがお勧めです。

図5：大掃除を実施した日(上位5日)

1位	12月30日(木)	31.0%
2位	12月29日(水)	29.3%
3位	12月26日(日)	20.0%
4位	12月28日(火)	18.5%
5位	12月31日(金)	15.9%

(2021年末に大掃除した人 n=2,155)

図6：大掃除に費やした日数(上位3日)

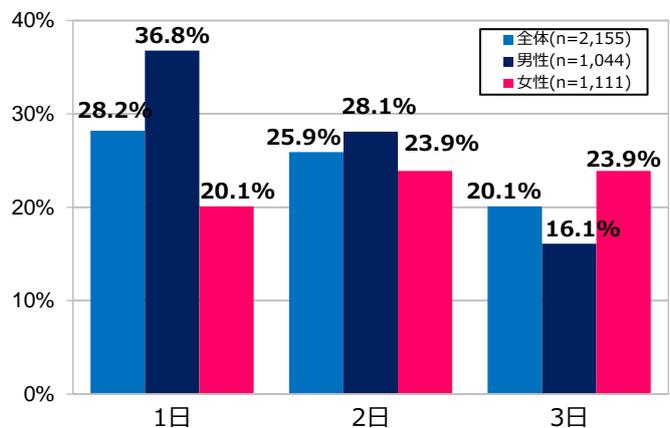


図7：大掃除に「1日」費やした理由（上位5項目）

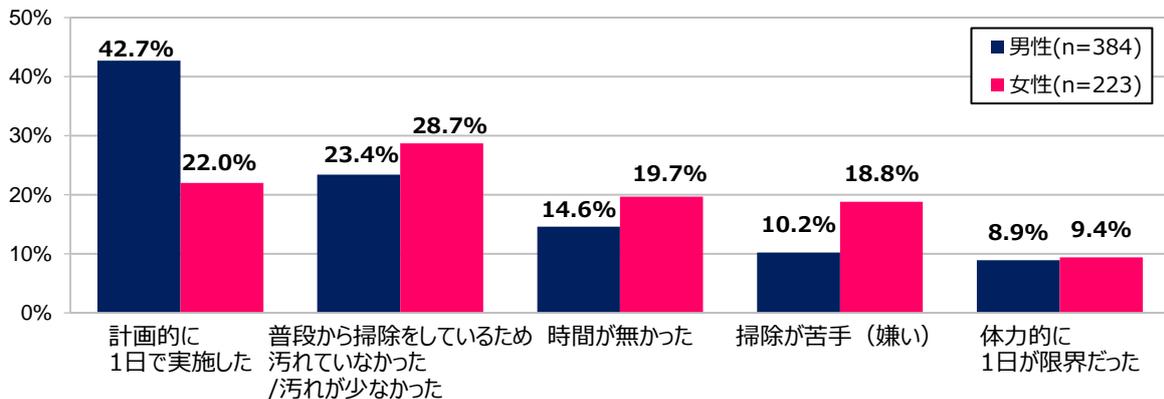
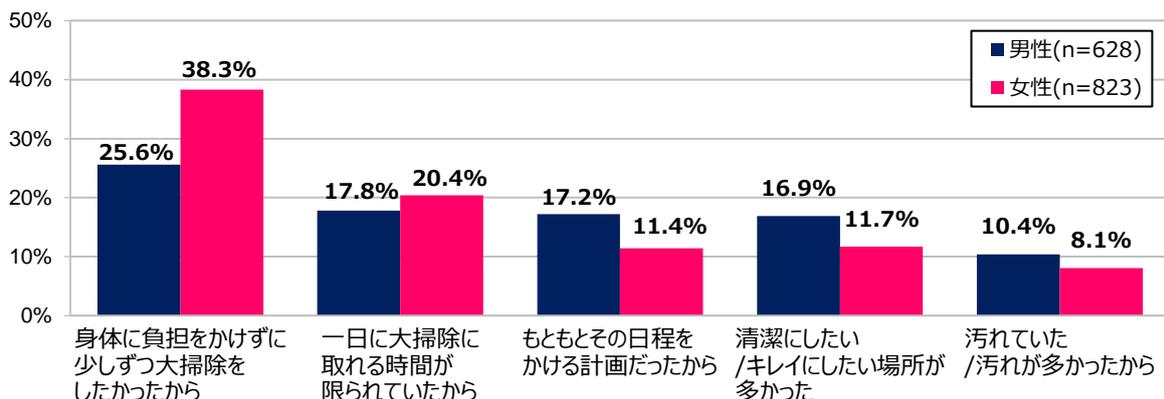


図8：大掃除に「2日以上」費やした理由（上位5項目）



## 夫婦の大掃除分担実態と、大掃除満足度

夫は家族ができない「窓・網戸」「浴室」を、妻は自分が一番よく使う「キッチン」、  
家族がよく触れる「トイレ」「洗面所」「リビング・ダイニング」を担当。  
夫婦の大掃除満足度は男女で20%以上のギャップが。

2021年末の大掃除で、夫婦が担当した掃除場所を見てみると、夫は「窓・網戸」「浴室」が、妻は「キッチン」「トイレ」が上位に挙げられました（図9）。平均掃除箇所は夫が3.6か所、妻は4.8か所と、妻の方が多くの場所を担当する傾向です。また、それぞれの場所を担当した理由を聞いてみると、夫はどちらも「家族がしない/できない場所だから」を1位に挙げたのに対して、妻はキッチンは「自分が一番用使う場所だから」が約60%と突出した一方、トイレは「家族がしない/できない場所だから」「家族がよく触れるから」が30%以上の割合で挙げられるとともに、「感染症予防のため清潔にしておきたかったから」も一定数挙げられ、コロナ禍の影響も推測されます（図10）。

さまざまな理由のもと夫婦が分担して大掃除していることが分かったところで、配偶者の大掃除の取り組みに対する満足度を聞いたところ、夫の妻への満足度が91.6%だったのに対し、妻の夫への満足度は68.7%と、夫婦間で20ポイント以上ものギャップがありました（図11）。妻の不満理由の上位は「積極的に取り組んでくれなかった」と「担当箇所の少なさ」「きちんと汚れが落ちなかった」です（図12）。ぜひ2022年末の大掃除の参考にしてみてはいかがでしょうか。

図9：大掃除を担当した場所

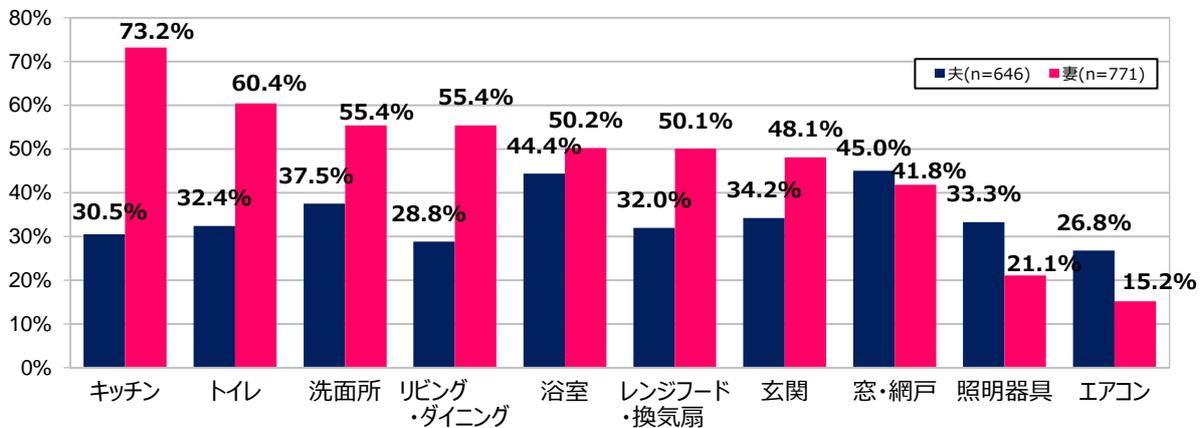


図10：その場所の掃除を担当した理由

### ■ 夫

窓・網戸 (n=291)	
家族がしない/できない場所だから	36.1%
一番汚れている場所だから	24.1%
指示された場所だから	23.4%

浴室 (n=287)	
家族がしない/できない場所だから	22.3%
家族がよく触れる場所だから	21.3%
指示された場所だから	16.4%

### ■ 妻

キッチン (レンジフード・換気扇は除く) (n=564)	
自分が一番よく使う場所だから	59.8%
家族がしない/できない場所だから	31.7%
一番汚れている場所だから	25.5%

トイレ (n=466)	
家族がしない/できない場所だから	39.1%
家族がよく触れる場所だから	32.4%
感染症予防のため清潔にしておきたかったから	21.9%

図11：配偶者の大掃除の取り組みに対する満足度



図12：妻が夫の大掃除の取り組みに不満な理由 (上位3項目)

- 大掃除に積極的ではなかった 65.6%
- 担当した箇所が少なかった 22.0%
- きちんと汚れが落ちなかった 10.4%

## コロナ禍2度目の大掃除における注力点

長引くコロナ禍の影響が「ウイルス・菌など目に見えない汚れの掃除意識」「除菌・抗菌・消毒できるアイテムの使用」「換気回数」「手で触れる頻度の高い箇所・ものの掃除意識」は3割以上の方が増えた/高まったと回答。

2021年末は、コロナ禍で迎えた2度目の大掃除となりました。コロナ禍での大掃除意識・実態の変化について調査したところ、いずれの項目も約6割が「変わらない」と回答しているものの「ウイルス・菌など目に見えない汚れの掃除意識」「除菌・抗菌・消毒できるアイテムの使用」「換気回数」「手で触れる頻度の高い箇所・ものの掃除意識」の4項目は、3割以上の方が2020年末の大掃除と2021年末の大掃除を比較して「増えた/高まった」と回答しました。長引くコロナ禍や変異株への懸念から、感染症対策に注力した様子うかがえます。

まもなくコロナ禍3度目の年末大掃除を迎えます。ぜひ大掃除のシーンでの衛生対策を今一度考え、除菌アイテムの準備などは早めに行っておきましょう。

図13：2020年末と2021年末の大掃除を比較して変化したこと

